

製品名: p73 (リン酸化 Tyr99) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05195**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	73kDa

抗原情報

遺伝子名	TP73
別名	TP73; P73; Tumor protein p73; p53-like transcription factor; p53-related protein
遺伝子 ID	7161.0
SwissProt ID	O15350
免疫原	抗血清は、ヒト p73 の Tyr99 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 66-115

背景

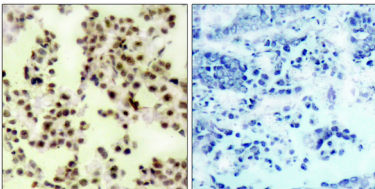
腫瘍タンパク質 p73 (TP73) ホモサピエンス この遺伝子は、ストレスや発達に対する細胞応答に関与する転写因子 p53 ファミリーの

メンバーをコードしています。この遺伝子は、神経芽腫やその他の腫瘍で頻繁に欠失し、複数の腫瘍抑制遺伝子を含むと考えられている染色体 1p36 上の領域にマッピングされます。この遺伝子が単一对立遺伝子発現していることが実証されており（おそらく母親の対立遺伝子に由来）、神経芽腫の候補遺伝子であるという考えを支持しています。この遺伝子については、選択的スプライシングや代替プロモーターの使用に起因する多くの転写バリエーションが見つっていますが、一部のバリエーションの生物学的妥当性や完全長の性質は決定されていません。[RefSeq 提供、2011 年 2 月], 補因子: サブユニットあたり 1 つの亜鉛イオンを結合します。、疾患: ヒト癌のさまざまな細胞株で頻繁に変異する染色体領域にマッピングされます。 p53 とは対照的に、ヒトの癌において頻繁に変異することはないと思われる。神経芽腫および乏突起膠腫ではヘミ接合性が観察される。、ドメイン: 酸性転写活性化ドメイン、中央 DNA 結合ドメイン、および ABL チロシンキナーゼ SH3 ドメインに結合する C 末端オリゴマー化ドメインを有する。、ドメイン: WW 結合モチーフは WWOX との相互作用を媒介する。、機能: DNA 損傷に対するアポトーシス応答に関与する。転写活性化ドメインを含むアイソフォームはアポトーシス促進性であり、このドメインを欠くアイソフォームはアポトーシス抑制性であり、 p53 および転写活性化 p73 アイソフォームの機能を阻害する。腫瘍抑制タンパク質である可能性がある。誘導: DNA 損傷によって誘導されない。転写活性化ドメインを欠くアイソフォームは遺伝子誘導を阻害します。、その他: RANBP9 との相互作用により活性化および安定化されます。、PTM: アイソフォーム α (アイソフォーム β はそうではありません) は Lys-627 が SUMO 化されており、プロテアソーム分解を促進しますが、転写活性には影響しません。、類似性: p53 ファミリーに属します。、類似性: 1 つの SAM (無菌 α モチーフ) ドメインを含みます。、細胞内局在: DNA 損傷に反応して核内に蓄積します。、サブユニット: p53/TP53 および CABLES1 との複合体中に存在します。 C 末端オリゴマー化ドメインは ABL チロシンキナーゼ SH3 ドメインに結合します。 HECW2 と相互作用します。アイソフォーム β はホモタイプ的に相互作用し、 p53/TP53 と相互作用しますが、アイソフォーム α は相互作用しません。アイソフォームガンマは、ホモタイプ的に相互作用し、すべての p73 アイソフォームと相互作用します。アイソフォームデルタは、アイソフォームガンマ、アイソフォームアルファ、およびホモタイプ的に相互作用します。アイソフォームアルファとベータは HIPK2 と相互作用します。アイソフォームアルファは RANBP9 と相互作用します。アイソフォームベータは WWOX と相互作用します。、組織特異性: 脳、腎臓、胎盤、結腸、心臓、肝臓、脾臓、骨格筋、前立腺、胸腺、膵臓。胎児組織で高発現しています。、

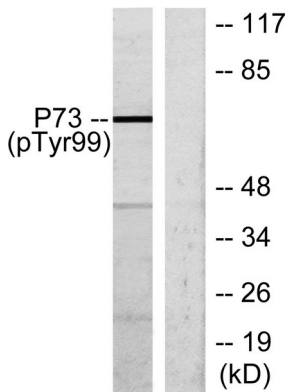
研究分野

タンパク質アセチル化

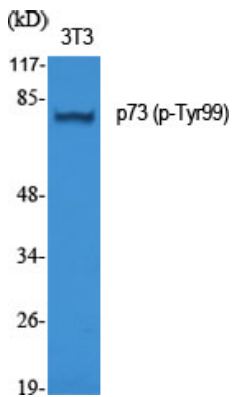
画像データ



p73 (リン酸化 Tyr99) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



過バナジン酸処理した K562 細胞ライセートの p73 (リン酸化 Tyr99) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 p73 (Y99) ポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。



Phospho-p73 (Y99) ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析。